

葦森の風

ごあいさつ

新年あけまして おめでとうございます。

2010年のお正月は、皆様方にとってどのような幕開けだったでしょうか。

今年から、校長室通信として『葦森の風』を発行させていただきます。学校の取り組みや報告などさまざまな内容になるかと思いますが、少しでも保護者の皆様方に、足守中学校の様子を知って頂いて、ご理解とご協力を賜りたいと考えております。



(校長 津川倫郎)

協同学習の推進その①

本年度の7月から研究を開始した『協同学習』について、今回から少しずつ説明をさせていただきます。1・2年生につきましては、3学期から全面的に『協同学習』を実施していく計画です。



【1】協同学習とはどのような学習なのか。

協同学習とは、小グループ（男女混合4人班を基本とする）でお互いに力をあわせ、助け合いながら学習を進めていく集団学習をいいます。協同的な学習のためにはグループの成員は、お互いに顔を合わせて語り合い、継続して共同作業をすることが必須です。

【2】足守中学校において、協同的な学びは、なぜ必要なのだろう。

足守中学校の生徒は、素直でよく指示に従いまじめに取り組むことができます。しかしその反面、自己表現や自己主張をすることは不得手な生徒が多いように感じます。これまで、温かい地域や家庭に支えられて成長してきているからこそ逆に、これからの高校生活や社会生活の場面で、自ら積極的に人間関係を構築したり、自分を表現する力がいっそう必要になってくるものと考えています。したがって、毎時間の授業の中で協同的な学びを実践することで、人と関わる中から学習が深化し、興味も伸長するというスキルを身につけさせていきたいと考えています。

【3】どのような理論の裏付けがあるのだろう。

東京大学大学院教育学研究科長の「佐藤 学」教授の理論や元富士市立岳陽中学校校長「佐藤雅彰」先生の著書「公立学校の挑戦～授業を変える学校が変わる」（ぎょうせい）また、岡山県教育委員会のホームページの中にある指導課の「自分の考えを持ち、それを表現する力」の向上に向けて一小・中学校の授業改革への提案一など。 http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=33485

【4】足守中学校のバックアップ体制は。

岡山大学大学院教育学研究科教授「佐藤 暁 (サトル)」先生が足守中学校のスーパーバイザーとして今後の指導・助言を引き受けてくださっています。

3年生の進路実現に向けて

ともあれ3年生にとっては、目前に控えている受験という大きな壁が何よりも気がかりなことであると思います。上で述べました「協同学習の推進」につきましても、生徒にも説明していますが、3年生には、混乱を招かないように配慮しています。3学期始業式で生徒に伝えた話を紹介します。

「人生には、何度か『特別な自分を表現する』時が必要である。」という内容です。進路実現に向けて最大の努力をすることは、高校に合格することだけがすべての目的ではなく、特別な自分を表現する力があることに気づき、自信を持つことこそが大切な目的のひとつである。という話をしました。マンガ・テレビ・ゲーム・メールやパソコンなどの誘惑に立ち向かっていく工夫や努力を、自分自身で切り開いていって欲しいと期待しています。



新型インフルエンザの予防を

昨年は、新型インフルエンザに、大きく揺れた年だったと思います。足守中学校も学級閉鎖がりましたが、お陰様であり長期に及ぶことが無く何とかここまで来ています。各ご家庭でのご協力の賜と感謝しています。特に3年生の子どもさんをお持ちの方は、受験に向けて不安が大きいものと思います。ワクチン接種が可能となってきたので、やや安心材料かと思いますが、毎日の手洗い・うがいは欠かさず習慣づけて頂きたいと思います。